

節分は「2月3日」と覚えている方も多いかもかもしれませんが、実は必ずしも2月3日であるとは限らないのをご存じでしょうか。2月の節分は「立春の前日」とさだめられており、立春は年によって変わることがあるため、2月2日や2月4日になる場合もあるのです。立春とは「二十四節季」の1つで「春のはじまり」をあらわします。二十四節季とは「春」「夏」「秋」「冬」の四季のうち、各季節を6つの節目に分けたもので、春の「啓蟄（けいちつ）」などの節目があります。年中では立春の次に「雨水（うすい）」、厳密にいうと節分は年に4回あることになり、重んじられるのは、昔の旧暦と季節の考え方が関係しています。1月を「新春」というように、昔は春が新しい年のはじまりとされていました。旧暦の1月は現在の2月にあたり、新しい年へと切り替わる2月の節分が大切であると考えられたようです。

節分



今年は感染症の拡大防止のために鬼と福の神に扮した職員が各病棟の食堂談話室へ行き患者様には新聞紙で作成した豆を投げて頂きました。お一人で投げられない患者様は職員がお手伝いさせて頂き投げて頂きました。



福の神に扮した職員と握手されたり、上手に鬼に豆を当てて喜ばれたり笑顔の絶えない豆まきとなりました。

